

あすなろ通信

茅ヶ崎高校校長だより
No.27 令和元年6月20日

大きな玉ねぎの下で ～はるかなる想い～

先日、久しぶりに聞いた懐かしいメロディーがあります。それがタイトルにある爆風スランプというグループが歌った「大きな玉ねぎの下で」という曲です。1990年台に流行った曲ですので、この曲名を聞いてピンとくる高校生はほとんどいないことでしょう。

まず、その歌詞を書いてみます。

大きな玉ねぎの下で ～はるかなる想い～

爆風スランプ

ペンフレンドの二人の恋は
つるほどに 悲しくなるのが宿命
また青いインクが涙でにじむ せつなく
若すぎるから 遠すぎるから
会えないから 会いたくなるのは必然
貯金箱こわして
君に送ったチケット
定期入れの中のフォトグラフ
笑顔は動かないけど
あの大きな玉ねぎの下で
初めて君と会える
九段下の駅をおりて 坂道を
人の流れ 追い越して行けば
黄昏時 雲は赤く焼け落ちて
屋根の上に光る玉ねぎ



ペンフレンドの二人の恋は
言葉だけが たのみの綱だね
何度もロビーに出てみたよ 君の姿を捜して
アナウンスの声に はじかれて
興奮が波のように 広がるから
君がないから 僕だけ淋しくて



君の返事 読みかえして 席をたつ
そんなことをたたくりかえして
時計だけが何もいわず回るのさ
君のための席がみつめたい

アンコールの拍手の中 飛び出した
僕は一人 涙を浮かべて
千鳥ヶ淵 月の水面 振り向けば
澄んだ空に光る玉ねぎ
九段下の駅へ向かう人の波
僕は一人 涙を浮かべて
千鳥ヶ淵 月の水面 振り向けば
澄んだ空に光る玉ねぎ



「ペンフレンド」、もう今ではほとんど使われていない言葉だと思います。この歌ができた1990年頃は、今のようなスマートフォンはもちろん、携帯電話やPHSなどもない時代でした。遠距離にいる恋人との連絡は、もっぱら手紙しかありませんでした。なぜ電話をしないのかと不思議に思うかもしれませんが、家電話しかなかったこの時代は、父親や母親が出るかもしれない家電話には、そう簡単に連絡することはできませんでした。

恋人と一緒にコンサートを観ることを夢見て、自分の想いをしたためた手紙と一緒に、貯金箱に貯めた大切なお小遣いで買ったコンサートのチケットを送りました。コンサートの会場は、東京の九段下にある日本武道館。日本武道館の屋根には、大きな玉ねぎのような「疑宝珠(ぎぼし)」が輝いています。

手紙でやりとりする言葉だけを頼りに、コンサート当日の約束をしました。そして、いよいよコンサートの当日。いくら待っても恋人の姿は現れません。コンサートも終わりに近づいてきて、幸せの絶頂からだんだん悲しみのどん底に突き落とされていきます。

アンコールの拍手が鳴り響く中、耐えられなくなり会場を飛び出します。嫌われてしまったのか、電車が遅れているのか、はたまた急に具合が悪くなったのか。スマホなどのないこの時代は、連絡の取りようもありません。さっきは希望に満ちて見上げた「あの大きな玉ねぎ」が、今は涙ににじんで見えている。肩を落としてふと千鳥ヶ淵の池を見ると、水面(みなも)には澄んだ空に「大きな玉ねぎ」が輝いていた。

手紙を書くときは、相手のことを想いながら、文章を書いては消して、「こんな

表現をしたら相手はどう思うだろうか」「この言い方で相手にうまく伝わらるか」など、何度も推敲しながら完成させていきます。書き終えた手紙を出すときも、やはり出すのをやめようかとためらい、最後までドキドキしながら、勇気を振り絞ってポストに手紙を入れました。そして、相手から返事が届くまで、ワクワクしながら、毎日のようにポストを覗いていました。

現在はスマートフォンなどの普及により、友達との連絡が大変簡単にできるようになりました。LINE などを使えば、瞬時に相手へのメッセージを届けることができますし、またすぐに返事を受け取ることもできます。

このような便利な道具があるので、多くの場合、自分の気持ちや感情をすぐに相手に伝えてしまい、「これを読んだら相手はどう思うだろうか」など、じっくり相手の気持ちを考える時間が少なくなっているのではないのでしょうか。

これからの社会では、多くのことがコンピュータにとって代わられます。今ある仕事の半分はなくなり、そして新しい仕事が生まれてきます。これからの社会で大切になってくるのは「人間らしい心」や「思いやり」であると言われていきます。以前であれば、自然と相手のことを考える時間があつた訳ですが、今、皆さんは自分で意識しない限り、そのような時間は作れません。

LINE などメッセージを送る前に、ちょっとでいいから、立ち止まって相手のことを考える時間を作ってみませんか。また、直接会って話した方がいいこともきっとあることでしょう。そうしたちょっとした行動が、皆さんの「人間らしい心」や「相手を思いやる気持ち」を育ててくれるのだと思います。



茅高ニュース ～茅高よ、世の荒波を分けて進め～

[全日制]

遠足でクラスの団結を深めました

4月23日(火)、晴天に恵まれた中、各学年の遠足が行われました。

1学年は、クラスの友達と親睦を深めるため、静岡県裾野市にある「ぐりんぱ」に行きました。早朝の平塚駅集合も大きなトラブル等なく集合することができました。お天気にも恵まれ、新緑が華やかに山を彩り、澄んだ青空のもと各班でカレー作りを楽しみました。みんなおいしそうにカレーを食べていました。中には、5杯も食べたという生徒もいました。その後、各班で行動し、思い思いに楽しみました。入学してすぐの遠足でしたが、帰りにはみんな親しげな空気に包まれていました。2年次にある修学旅行に向けて、沖縄について理解を深め、益々クラスで団結し、有意義な生活を送れるように、学年みんなで頑張っていこうと思います。(1学年担当：磯崎)

2学年は、修学旅行の集合練習も兼ねて羽田空港に集合しました。その後、班別自主行動で、浅草や上野周辺をまわり、再び上野公園に集合して解散しました。見学場所で多かったのは、上野公園、浅草、アメ横、スカイツリーなどでした。他にも、墨田水族館、新大久保、お台場などをまわった班もありました。学校に帰ってから、報告レポートを作成しました。まだ、新しいクラスになったばかりの慣れない中でお互いに気遣いをし、よい雰囲気ですべてを終了することができました。修学旅行でも班作りや部屋割り、自主行動計画の作成などをするので、修学旅行の事前学習としても意義あるものになりました。報告レポートは、各クラス前の廊下に張り出してありますので、ぜひご覧ください。(2学年担当：尾上)

3学年は、進路探究・社会見学を目的とし、東京方面での遠足を実施しました。私は進路探究として青山学院大学、社会見学として豊洲市場に行きました。青山学院大学では、上級学校の雰囲気を肌で感じることができ、自分が受験生であるという自覚をより強く持つことができました。豊洲市場では、テレビでよく見るような魚のセリを見ることはできませんでしたが、施設内の窓からセリの会場を実際に見ることができてよかったです。たまにすれ違う他の班の友達もとても楽しそうな様子で、この遠足をきっかけにクラスの人との仲をより深められました。遠足を機に深められた友人との仲を大切に、高校生活最後の1年間を楽しく充実したものになりたいとあらためて思いました。そして、自分が望む進路に進めるようにがんばっていきたいです。(3年旅行係：澤野朱音)

[定時制]

新入生歓迎遠足を行いました

5月17日(金)、茅ヶ崎市内にある柳島キャンプ場で新入生歓迎遠足を行いました。1・2年生はかまどを使ってカレーを作り、3・4年生はBBQ コンロを使って焼きそばとフランクフルトを作りました。生徒にとっては、普段使っていないかまどや炭を使っての慣れない調理でしたので、貴重な体験になりました。



また、食事後にはレクリエーションとして、謎解きゲームを柳島キャンプ場内で行いました。キャンプ場内にあるパネルを探し、ヒントを読み取って次のパネルを探し、キーワードを完成させるというもので、全員が楽しそうに参加し、充実した一日となりました。(担当：櫻井)